

# 医療安全管理ニュースレター

日本医科大学千葉北総病院  
(第45号)

発行：令和3年4月1日(木)



## 病院長として考える医療安全

日本医科大学千葉北総病院 病院長 別所竜蔵

2020年4月より、当院病院長を拝命いたしました別所竜蔵です。よろしくお願いいたします。

私は心臓血管外科医であり「外科医は結果である」を胸に刻みながら、1988年よりその道を究めるため日々邁進しておりました。2007年4月に日本医科大学付属病院より当院に異動し、心臓血管外科部長として患者さんの安全を第一に手術成績の向上に取り組んでまいりました。2013年には当院医療安全管理委員会委員長に、また2017年には副院長として医療安全管理部部長を兼任させていただきました。このように、病院長になる以前から当院の医療安全の向上に関する業務に長く従事させていただいており、病院あげての医療安全に関する取り組みについては病院長に就任したからと言って大きく変わることはなく、病院運営の一丁目一番地であることに変わりはありません。

医療安全管理部部長時代から、医療安全に関する新たな知見や取り組みなど安全向上に資すると考えたものは、当院の医療安全マニュアルや管理指針に率先して取り入れてまいりました。しかしながら、医療安全の向上にはマニュアル作りや指針の改定のみでは、実際の安全が担保されるわけではありません。この1年、世界で蔓延する新型コロナ感染の厄災を見ても、緊急事態宣言を発出したからといって、感染が制御されるわけでは決してありません。一人一人の真摯な取り組みや対策こそが肝要なのです。



ここでは紙面の関係から詳細な取り組みについては省略せざるを得ませんが、今一度医療の原点に立ち返り、それぞれの医療者の心構えについて自身で自問自答をしていただきたいと思います。例えば、『病気で苦しんでいる人を何とかしたい』、『元気になっていただきたい』、『生活の質を維持・向上していただきたい』ということなどです。「人」嫌いなものが臨床に携わる医療者を職業として選択することはあり得ないことだと思います。「人」が好きだからこそ、『病魔で苦しんでいる人を何とかしたい』という原点が皆にあると信じています。当たり前のことですが、私たちも患者さんも一人一人、同じ人間であり（私たちも当然患者になりうる）、この先生は（または看護師さんは）、私のことを本当に考えてくれているのかどうかは、実は分かっています（専門家に対する一定の敬意もあるでしょうが、お互いの人間関係において本当の信頼はそこではありません）。そういう患者さん側の視点から自身の診療について日々自問自答する必要があります。患者さん自身も自分の病魔に関して積極的に理解し対峙していただく必要もあります。それこそ他人ごとではないのですから。なぜなら医療者、患者さんがともに病気に関する理解や診療方針、治療に関するリスクなどについて共有し、共に手を携えて病魔と対峙していくことこそが、医療安全につながる第一歩であると考えます。

私は、病院長就任の際に、そのモットーとして“ALL for One”を掲げさせていただきました。一人一人の患者さんに対して、病院職員が一丸となって対応していく、一つ一つの問題点に全病院を挙げて取り組んでいくことです。もちろん病気に関しては“ALL for One”の“ALL”には患者さん自身も含まれることは医療安全の観点からもとても大切なことです。

病院長として、これからも当院での医療が安全に行われることを第一に取り組みを続けてまいります。